



大高恒藏議員

一般質問

健康な体作りを目指し、乳幼児から超高齢者までを対象としたイベントを開催できないか

答弁：「健康ふかうら21・食育推進第2次計画」に基づき、年齢別に特化した各種事業を実施していきたい。

《大高議員》 人生100才までの時代になったが、健康な身体で長生きするには病気を克服し、心身共に健康に生きるすべを真剣に考えなければならぬが、個人では難しい。

そこで、町が先頭に立ち、イベント（祭り）を通して、健康の秘訣を町民に染み渡すように継続していく計画を立て、実行してはどうか。

《町長》 弘前市や八戸市などの市部においては、医療関係団体等の参画により「健康まつり」と称してイベントを開催しているが、当町のような小規模自治体においては、イベントの規模・内容・参画団体・スタッフの確保、イベント開催の効果を考え、現時点で健康づくりとしてのイベント（祭り）の開催は考えていない。



▲「恋する灯台」に指定された鱸作埼灯台

に基づき、年齢別に特化した各種事業等を着実に実施した方が、町民の健康づくりとしての効果は大きいと考え、今後も当計画に沿った各種事業の取組を推進していきたい。

《大高議員》 なくなったイベント（ヤットセ祭り・マラソン・スポーツフェスティバル）に代わるイベントを考えてもらいたい

《大高議員》 白神世界遺産、北前船の日本文化遺産、そして、日本ロマンチスト協会（長崎）から認定された「恋する灯台」、これ等を一緒にした大きなイベントを考えられないか。

《町長》 当町の夏のイベント「ふかうらヤットセ」については、今年度は実施に至らず、町民及び観光事業者等からは、新年度における夏のイベントを強く熱望されている。

町としても、令和2年度は深浦町合併15周年の年であり、W認定の町として冠協賛をし、新しい令和の夏のイベントを計画・検討している所である。イベント期間中には「恋する灯台」に認定された鱸作埼灯台の無料開放等も考えている。

人と人の絆を大事にし、命を守る教育を乳幼児から高齢者までの計画を策定し、それぞれの年代で講座や研修会を開催してもらいたい

《大高議員》 ①赤ちゃんの命を守るのは両親だが、生まれる前から育児に自信のない親には誰が指導するのか。

《町長》 子供が生まれる前から子育てに自信のある親はあらず、誰しも何かしら不安を抱えているものと考えている。特に出産後間もない母親は、慣れない育児に昼夜追われ、身体的負担だけでなく「産後うつ」などの精神面での問題が出現しやすい。

この「産後うつ」の早期発見と適切な対応によって、産後の育児支援と虐待予防の充実を図るため、新生児及び乳幼児訪問時に産後うつ、スクリーニング票を活用しながら、母親の気持ちを知るためのアンケート調査を実施し対応している。

また、乳幼児の健やかな発達と成長及び育児支援のために実施している乳幼児健診では、問診、身体測定、各種診察、保健指導、離乳食・幼児食指導を行っており、今後とも関係機関と連携を図りながら、きめ細やかな育児支援に努めていきたい。

《町長》 年次計画で網戸の設置を順次進めており、現時点での設置状況は全体の約7割で、未設置の教室及び廊下についても令和3年度までに全て設置したいと考えている。

《大高議員》 ③今年7月下旬から9月上旬までの小中学校の各教室の温度調査はしたのか。

《町長》 夏場の各教室の温度調査は特に行っていないが、一部学校では毎日記録を取っている。実際に児童・生徒が暑さの影響を受けるのは、夏休み明けの8月下旬から9月上旬の1か月程度であり、今年はその間の最高気温が30度以上の真夏日となったのは3日間であり、児童・生徒の身体にはそれほど影響はなかったと考えている。

《大高議員》 ④猿やカラスは網戸を破ることではないか。

《町長》 年次計画により網戸を設置してから、猿やカラスが網戸を破ったなどの事例は、現在まで発生していない。

《大高議員》 ⑤来年は温度が下がる保障はない。むしろ、今年より悪くなる可能性があると思うので、各校にエアコンを設置すべきである。

《町長》 既にエアコンを設置しているのは、各学校のパソコン室、いわさき小学校の保健室のみである。各学校からは熱中症対策として保健室だけでもエアコンを設置してほしいとの要望もあり、早期に対応したいと考えている。

また、いわさき小学校以外の学校は築30年以上が経過し、建設当初からエアコン設置を想定しない設計であり、キュービクルの容量不足により電力確保もできない状況にあるため、全教室にエアコンを設



▲危険箇所の調査

《大高議員》 ②保育中の子供の命を守るには保育士であると思うが、保育施設周辺の車の事故から子供を守るには、保育士であり運転手であり、自治体（キッズゾーン設置等）でもある。

全国的に相次ぐ保育施設周辺での重大な交通事故を受け、今年度初めて危険箇所等の調査を行った。

《大高議員》 ③小・中学生をいじめから守るのは子供に関係するすべての人々だが、自分自身の勇気でもある。

人間のすべての年代で命を守ることを自治体も研修し、町民の命を守る講座等を開催してほしい。

《町長》 小中学生においては、日頃から「特別の教科 道徳」を中心に、学校教育活動全体で親切・思いやりや生命の尊さなどを機会を捉え指導を行っ

《大高議員》 ②教室・廊下に網戸を設置する年次計画は、計画完了まであと何年かかるのか。

置することについては近隣市町村の動向を踏まえ、今後の検討課題としたい。

《大高議員》

⑥地球温暖化が地球やそこに住む全ての動植物にどんな影響を与え、今人間がやるべき温暖化防止は「何か」を、小中学生の学習に取り込むべきと思う。

《町長》

当町では、日頃から総合的な学習の時間の環境教育の中で、地球温暖化や自然破壊など様々な環境問題を学習に取り上げている。

学校閉庁日に卒業生を受け入れて下さったのは教育長なのか、学校長なのか

《大高議員》

①令和元年8月14日午後、学校を訪問する卒業生50人のためにスリッパや扇風機を用意し、卒業生代表が当日(14日)

の朝学校に行くと、既に扇風機が爽やかな風を起こしていた、と新聞の明鏡欄に掲載されていた。

学校閉庁日(8月13日、14日、15日)3日間の緊急時の連絡は町教育課で対応し、学校長に結果を連絡することになっており、部活や補習でも学校長や先生方も無断で学校に入ることができないはずだが、許可を出したのは教育長なのか、学校長なのか。

《町長》

深浦町立小学校及び中学校の管理運営に関する規則第36条に「校長は、学校教育上支障がないと認めるときは、学校の施設設備を社会教育その他公共のために利用させることができる。ただし、3日以上にわたる利用又は異例の利用の場合には、あらかじめ教育委員会の指示を受けなければならぬ」となっており、今回行った学校閉庁日における学校訪問については、1年ほど前から事前に申し込みがあり、訪問日は1日で滞在時

間30分程度の訪問内容であったことから、異例の利用には当たらないと学校長が判断し、許可したものである。

《大高議員》

②学校訪問の要望を許可したり、スリッパや扇風機等を準備するのは本来、町教育課が対応すべきと思うが町長、教育長の考えは。

《町長》

原則的に、学校の管理運営及び学校施設の利用は学校長の判断、学校閉庁日における対応についても、学校側で対応することとなっている。今回の学校閉庁日における学校側の対応については、スリッパは日頃から来客用に用意しており、事前に不足分を追加し準備したものである。扇風機についても、卒業生代表者が8月14日朝に自ら準備したもので、主に学校側としては、学舎の鍵の開け閉めを行ったもので、その対応で問題ないと考えている。ただし、学校閉庁日にお

る緊急時の対応については、原則的にやむを得ない場合を除き、学校に勤務者を置かないとしており、児童・生徒に事件や災害等で被害が発生した際の、保護者からの緊急連絡先は教育委員会教育課となっており、対応も教育委員会教育課が行い、後日その内容を学校長に連絡することになる。

《大高議員》

③先例ができた以上、年に1、2回、広報ふかうらにお知らせ版で通常時の「学校訪問」は学校長の許可を得て、閉庁日に関しては町教育課に必要書類を提出するよう掲載し、町民にお知らせすべきと思う。

《町長》

学校訪問する際は、これまでも勤務日及び休業日については事前に学校側に連絡してもらい、訪問理由等を説明していただいた上で、学校長の判断により許可することになっている。学校閉庁日についても同様の対応で問題なく、

町として改めて広報等で周知する必要はないと考えている。



深浦校舎がなくなれば町の衰退に直結する。存続のためあらゆる施策を考え、ただちに実行せよ

《大高議員》

①11月18日の新聞に、2023年春には津軽半島北部から高校が消えると掲載された。2006年3月から2018年の間に、車力分校・小泊分校(金木)・稲垣分校・市浦分校(金木)が閉校。県によると、今後2022年から2023年にかけて今別校舎、中里高校、金木高校、そして、

とも定例の教育委員会会議や総合教育会議で協議していきたい。

松枯れやナラ枯れ対策に万全を

《大高議員》

①地球温暖化による気候の変化は、海・山の全ての動植物そして、地球そのものに影響を与え、当町に発生しているナラ枯れや松くい虫による被害も、地球温暖化が関係しているとのこと。

松枯れやナラ枯れが景観や環境にどんな影響があるのか。



▲ナラ枯れ被害(松神地区)



▲県立木造高校深浦校舎

昨年度から年1回、県高等学校教育改革推進室職員が来庁し、地域校に係る対応を協議しながら存続を強く要望している。

《大高議員》

②深浦校舎又は別の場所に大進学のための受験塾・無料塾を作り、県外から来る人向けには下宿代を補助し、生徒数が増えたら寄宿舎を建設するなど、地域の人達を巻き込んで、研修会や懇談会を開けなかったのか。

《町長》

仮に当町に新たな塾を新設

町としても、今年5月に総合教育会議を開催し、深浦校舎の今後について対応を協議してきたが、委員からは、これまで地元の高校存続を求め、板柳町・六戸町などが県教育委員会に要望書を提出したが、計画は見直しされず閉校となる予定であることから、町が深浦校舎存続を求める要望書を提出したとしても、その効果はほとんどないのではないかといった意見が多くあった。また、特色ある学科の設置等についても、青森県高等学校教育改革推進計画第1期実施計画の中に学科等の統廃合も含まれていることから、新たな学科等新設は難しいとの意見があった。

全国的に見れば、魅力や特徴ある対策を立て地元高校存続を成功している事例もあるが、当町の風土、地域性に合った施策でない効果は得られず、一概に他市町村の成功事例をまねても成果は上がらないと考える。

深浦校舎存続に向けては、

《町長》

深浦校舎については、令和元年度入学者数が16人であり、令和2年度入学者数が20人未満だと、他の地域校同様、県教育委員会と募集停止等の協議を行い、令和3年度に募集停止、令和5年3月には閉校となる。



▲松くい虫被害(広戸地区)

《町長》

多くの保安林(防風林や防砂林など)が松の木であることから、今後の被害拡大により、その植林目的が阻害される可能性がある。

ナラ枯れ被害については、多くのナラ類が秋の紅葉などの観光資源であり、一時的な景観悪化や地球温暖化及び森林生態系への影響はあるものの、ナラ類などの広葉樹の場合、枯れた場所から違う樹種が生育し新たな森林生態系が作られるため、大きな悪影響はないと考える。

《大高議員》

②動植物や人間にどんな被害が考えられるか。

《町長》

少なからず動植物への生命維持や森林資源の生育に影響はあるものの、町では、初期の被害対策を県及び関係機関と共同で実施しているため、動植物や人間への直接的被害は認められない。

《大高議員》

③大きな被害には伐倒・くん蒸・立木くん蒸が必要と思うが、ヘリコプターなどで薬剤散布すべきだと思う。

《町長》

県が主導し国、森林総合研究所、青森県産産技術センター、林業研究所と町が連携し、被害収束に向け対策に取り組む、その地域に最も適した処理方法を実施している。

薬剤散布については、病気を媒介するマツノマダラカミキリやカシノナガキイムシ以外の多くの生物をも殺し、逆に森林生態系や川、海の魚

をはじめ様々な生物にも悪影響を及ぼすことが懸念されるため、山林への薬剤散布は行われていない。

全国でも山林への薬剤散布は稀だが、他県において山林の一部に薬剤散布を行った例が報告されていることから、被害拡大防止の効果があくくん蒸処理と比較してどうなのか、森林に生息する生物への影響等を情報収集しながら、関係機関と協力し、より良い方策を検討したい。

農免道路から国道に通ずる取付道路を作れないか

《大高議員》

①農免道路から北金ヶ沢バイパスの頂上付近に通ずる取付道路を新規に建設できないか。また、現在ある農免道路(広域農道)から国道に通ずる農道を拡幅できないか。

《町長》

町道北金ヶ沢28号線道路改

良事業は、広域農道と町道を一体的に整備し、早急に国道101号や臨港道路と連結した新たな道路ネットワークを構築し、農産物や加工品の流通の迅速化・効率化により地域振興を図る目的で事業計画された。

平成30年度に測量及び設計業務、令和元年度で用地測量を行い、現在は道路拡幅の用地取得に対する土地所有者との用地交渉を実施しており、令和元年度工事予定箇所については、用地取得が完了したため、近く工事発注する予定であり、令和2年度、3年度と引き続き実施する予定である。



▲町道北金ヶ沢28号線起点

《大高議員》

②道路調査をするときは無断で畑や山林に入ることなく、いずれの方法にせよ必ず土地所有者の承諾を得るようにしてほしい。

《町長》

調査をする際は原則、土地所有者本人に直接事業計画を説明し承諾を得て実施している。

また、土地所有者が遠方に住んでいる場合は、書類を郵送した上で本人に電話連絡し承諾を得ているが、いずれも土地所有者と書面による承諾書を交わさず、誤解を生じた事例があったため、今後は書面を取り交わし、トラブルが無いようにしたい。



▲町道北金ヶ沢28号線終点